

ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！



2010年、「バケツ稻」の提供をきっかけに、小学校からの相談ではじまった「お米の出前授業」。苗植えから稻刈り、脱穀、粉搗りを体験し、お米について学べると人気です。今では、東京都の小学校の1割以上が利用するまでになりました。都内の小学校で広がるパルシステム東京の「お米の出前授業」を紹介します。

◆学校に定着した「お米の出前授業」

毎年、150を超える小学校が、5年生社会科の稻作学習の一環としてパルシステム東京の「お米の出前授業」を利用しています。前年度の5年生担任教師が次の年度の担任に紹介するなど、各校で定着しています。

練馬区立上石神井小学校もそんな学校のひとつ。コロナ禍にも関わらず、今年度の5年生も校内で苗を植え、栽培・収穫する米作り体験に取り組みました。12月4日には、練馬センターの活動長が、お米についての授業と粉搗り作業の指導を行いました。

◆生産者への感謝もしっかりと伝えました

4月に活動長になったこともあり、今回が講師デビューの亀井活動長。最初は緊張気味でしたが、「稻1本には何粒のお米がついているか知っている？」など、事前に用意したお米クイズで児童の心をグッとつかみます。

次は、校庭で育てた稻とパルシステムの産直産地の

▼亀井活動長(練馬センター)

「昔の人は稻に害を与えるイナゴをおいしく食べていたんだよ」と、お米についての情報を次々に話す活動長。今回が初めてとは思えないほどの楽しいお米トークに、児童たちも夢中で耳を傾けました。

「お米の出前授業は、生産さんの思いを伝えられるいい機会。パルシステム東京と配達地域をつなげる機会でもあるので、これからもがんばります」(写真右はじ)
(12月4日、上石神井小学校にて)



◀「ごはんの食べ方はいろいろあるけど、何が好き？」の質問に、「カレーライス！」「どんぶりが好き！」と、次々に答える児童たち。「パンはパンとしてだけで、アレンジは少ないよね。でも、ごはんはたくさんバリエーションがあるね」に、児童たちもうなずきながら聞いていました



◀すり鉢に粉を入れ軟式野球ボールで搗る作業に取り組む児童たち

稻を見比べます。「2本の稻についている粉は、数も大きさも全然違う。僕たちも大変だったけど、農家さんはスゴイ」の発言を引き出し、生産者の苦労を伝えることにつながりました。

◆「たべる」と「つくる」のつながりも

そして授業は粉搗り体験に。友だちに粉殻がかからないようにと校庭に散らばり、おしゃべりナシでみんな熱中していました。搗り終わった玄米はほんのわずかでも、「白米といっしょに炊いてもらう！」と満足そうに話す児童たち。「食べるときには感謝しながら食べましょう」と、活動長からは食の大切さを訴えました。

裏面に続く⇒

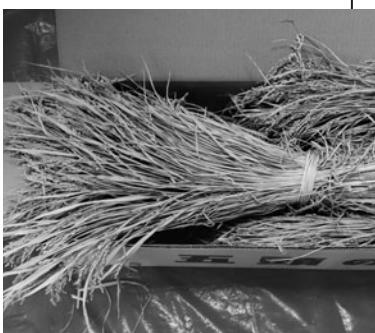
◆はじまりは地域への貢献

「バケツ稻」を配送センターが近隣の小学校に贈呈するところから始まったのが「お米の出前授業」です。2010年、江戸川区の小学校で初の出前授業が開催され、2012年にはパルシステム東京全体の取り組みに発展しました。

当時の江戸川センター長（現・産直推進課）で、出前授業開催に携わった木方課長は「配送センターと地域をつなげたいという思いから、何か地域のみなさんの役に立つことができないだろうかと…。当初は、低学年や幼稚園などの授業もありましたが、5年生の社会科で稻作を学ぶということを知り、それに合わせたカリキュラムにしたところ、多くの小学校から声をかけていただくようになりました」と話します。



◀「前期授業用の苗はJAつくば市谷田部から届きます。苗は育苗の時期もあり1月から準備に入り3月には種をまきます。4月にならないと申し込み数は出ませんが、例年の見込みで育苗に入っもらいます。苗は、米産地で唯一セットセンターへの物流便が出ているJAつくば市谷田部にお願いしています



◀後期授業用の稻穂は、JAえちご上越、JA津軽みらい、JAこまち、JA秋田ふるさと、JA佐久浅間、JA山形おきたま、JAささかみの7カ所の産直産地の協力で、各産地の収穫時期を見ながら調整し届けられます

使用する苗や稻はもちろん産直産地のもの。収穫時の天候不順などが重なると、生育が間に合わないかとハラハラすることもあります。

産地の状況と授業の時期に合わせての調整では産地のみなさんの協力があってのことです。“今日のお米は山形から来ましたよ”など、必ずどこから来たかをお知らせし、産地を身近に感じてもらえるようにしています。また、子どもたちの感想は産地に送るなど、顔の見える産直を心がけているそうです。

◆肥料は有機肥料を使用

肥料にもこだわっています。パルシステムグループの

関連会社で製造した有機質肥料で、化学物質無添加。食の安全を同時に伝えています。



コンバインで収穫すると自動的に脱穀されてしまうため、生産者さんが一束ず手で収穫し、はさ掛けで乾燥させ、稻穂の形を残した稻を送っています

◆「お米の出前授業」を未来へつなごう

今年度、コロナ禍で緊急事態宣言発令に伴う一斉休校のため、前期の苗植え授業はすべて中止に。3月時点で準備した苗は希望する学校へテキスト・肥料とともに届けました。後期の「脱穀・粉摺り授業」は80校から申し込みがあり、10～12月にかけ授業を行いました。マスク着用はもちろん、人数が多い学校では密を避け校庭で授業をすることもあったそうです。

2021年度の前期は4月から、後期は9月から募集を開始します。農業に触れる機会の少ない小学生に、パルシステム東京の「お米の出前授業」をとおして、米作りに触れてもらう。日本の食文化を未来を担っていく子どもたちに伝えるためにも、「お米の出前授業」はこれからも続けていきます。

また、小学校だけにとどまらず、地域での食育の一端を担う活動として、今後も取り組んでいきます。



// 見てね!! //



パルシステム東京ホームページ⇒「私たちの取り組み」⇒「お米の出前授業」で詳しく紹介しています